

2014年度 学校関係者評価  
報告書

学校法人滋慶学園  
東京医薬専門学校

作成日：平成 26 年 6 月 20 日

学校法人 滋慶学園 東京医薬専門学校  
第 1 回学校関係者評価委員会議事録

議事録作成者：中村 裕子

1. 開催日時 平成 26 年 6 月 19 日（木） 15:00～17:00
2. 開催場所 東京医薬専門学校会議室
3. 参加者 学校関係者評価委員  
多田 英人 卒業生代表（医療法人社団 同愛会病院 課長）  
小野 覚 保護者代表（こども心理科 保護者）  
田中 英里 近隣関係者（行船管理有限会社 取締役副社長）  
森 章 高校関係者（拓殖大学紅陵高等学校 学校長）  
古川 哲也 業界代表（医療法人柏葉会 柏戸病院 課長）  
篠原 陽子 業界代表（日本チェーンドラッグストア協会  
ヘルス・アンド・ビューティーケア人材センター 事務局長）  
神谷 文夫 業界代表（株式会社コスメティックアイダ  
代表取締役社長）  
五十嵐 樹 業界代表（社会福祉法人あらぐさ会 社会福祉法人職員）

学校側参加者

平田 豪成	学校法人 滋慶学園	常務理事
一宮 頼子	東京医薬専門学校	副学校長
結城 健二	同	事務局長
西田 茂男	同	教務部長

#### 4. 議事

(1) 学園関係者の紹介

(2) 委嘱状交付

(3) 平成 25 年度自己点検・自己評価結果報告及び平成 26 年度重点目標の説明

##### 1. 教育理念・目的・育成人材像

- ・現場に必要な専門的知識として**実学教育**、国際教育・人間教育を軸に教育を構成している。
- ・「チーム医療教育」「他職種連携」をキーワードとした連携教育の実施。
- ・中途退学率削減、専門就職率向上、離職率削減を 5 年間の目標とし、5 年先を見据えた運営を行っている。

##### 2. 学校運営

- ・組織目的・運営方針・実行方針・定量目標・定性目標・実行計画・組織図・職務分掌・部署ごとの計画及びスケジュール・附帯事業計画・業績評価システム・意思決定システム・収支予算書で構成した事業計画で運営を行っている。

##### 3. 教育活動

- ・チーム医療教育により、地域から医療現場まで、それぞれの場面に応じた連携教育を行っている。
- ・教授力の強化、授業改善に繋げる授業アンケートを実施している。また、研修等で成功事例の共有、スキルの向上に取り組んでいる。
- ・資格合格率の向上に為、対策講座を実施している。

##### 4. 教育成果

- ・就職率、資格合格率、退学率、それぞれの目標を達成する為、数字分析、対策立案の会議を行っている。すでに設けられているサポート体制を積極的に活用している。
- ・キャリアセンターを中心に、在校生、卒業生に対し就職状況の把握を離職防止に取り組んでいる。

##### 5. 学生支援

- ・各専門部署の担当者が、学校生活、学費、健康、就職等様々な側面から支援を行っている。
- ・保護者との連携を大切にし、入学前から卒業時まで学校生活の節目に応じた保護者会を実施し、学校と家庭の両面から学生をサポートしている。

##### 6. 教育環境

- ・最新設備、機器を充実させ学生の学習意欲喚起に繋げている。
- ・学園の理念に基づいた実習、研修を行っている。
- ・学校生活をより安心したものとするべく、防災設備、システムを整備している。

## 7. 学生の募集と受け入れ

- ・募集時期、選考内容に関して東京都専修学校各種学校協会の定めに基づいた募集を行っている。
- ・学納金に関して、在学期間中に必要となる費用を事前に明示している。
- ・入学前から、合格者にはプレ教育をスタートし将来像を明確なものなるよう取り組んでいる。

## 8. 財務

- ・事業計画で5年先までの収支計画を立て、適正な学校運営および予算消化を行っている。
- ・外部監査により収支の評価を受けている。
- ・財務情報はHPにて、公開している。

## 9. 法令等の遵守

- ・養成施設の設置基準について、教職員に向け研修を行い法令遵守について常に意識を持つよう働きかけをしている。
- ・自己点検自己評価委員会を設置し細部への確認を怠らない。
- ・H26年度、第2回目となる第三者評価を受ける。

## 10. 社会貢献

- ・地域連携の取り組みとして、近隣に向けてこども教室、視力検査、AED講習、言葉の発達訓練等を実施している。
- ・ボランティア活動は教育の中での大きな位置付けとし、学生も積極的に参加活動をしている。

## 11. 国際活動

- ・先進的な知識を持つ、日本の立ち居地を確認するという目的の海外研修だけではなく積極的に海外からの留学生や研修生を迎え入れている。海外数箇所に学園の現地事務所を設け国際教育センターが窓口となっている。学生の英語スピーチコンテストを行い受賞者は国際教育センターのサポートにより短期留学をしている。

### (4) 審議およびご意見

- ・離職率、3年間の教育目標や運営方針は今も含めて先を見据えての取り組みがされているようだ。
- ・チームを意識している言葉が何度もでてきているが、現場でもチームで業務にあたる場面が増えてきており、当院の職員もそこが壁と捕らえている。地域連携ということで院内に留まらず、院外で他病院との連携をする機会もあり、その部分に力を入れた教育を行っているということは現場の状況をよく見た取り組みと感じた。
- ・学校全体の運営について真摯に取り組んでいると感じた。その中でも連携に強く関心を持った。学科、地域、業界、グループ校との連携の取り組みを紹介していた。

ただき参考になった。自分と違う考え方、環境の人と関わる事で豊かになっていくと思う。

- ・教育プログラムが充実していると感じたが、これから少子化に向かっていずれは壁にぶつかると思う。海外への研修プログラムもいい取り組みではあるが、外国からの人材の受入れも、これからの国際感覚で重要となってくるのではないか。私共の企業でも外国人の受け入れに取り組んでいきたい。

## 5. 委員からの評価

※学校関係者評価委員会 評価結果参照